

第12回 双葉町復興推進委員会 議事概要

■日 時：平成26年10月27日(月) 午後1時00分～3時00分

■場 所：双葉町いわき事務所 2階大会議室

■出席者：別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 町長あいさつ

3. 議 事

(1) 双葉町の復興の絵姿について

資料2・3に基づき、委員長及び事務局より説明後、質疑。

委員の主な意見は以下のとおり。

- 前回の委員会での意見で、町内復興拠点の模型を製作すべきとの話があった。具体的に早急に、平成26年度中に実施してほしい。町外の復興拠点については、いわき市だけではなく、郡山市・福島市の拠点でも、それぞれ作って欲しい。
- 資料2の18ページの「交流の促進」に「絆カフェ『せんだん広場』」とあるが、名称が誤っているため「双葉町コミュニティ施設『せんだん広場』」と修正すべき。
- 資料2の3ページで「双葉町の復興を巡る厳しい現実」とあるが、大切なところなので、見やすく、箇条書きなどで分かりやすくしてほしい。
- 今回の中間報告の作成にあたり、現時点では初期の復興着手期に先立ち、計画を立てているが、復興着手期・復興先行期という時期と時期の間で期が変わるとき誰が、どのように話し合いをするのか、報告書に入れてほしい。
- 資料2の3ページの「双葉町の復興を巡る厳しい現実」については、箇条書きの方がよい。一番大事な部分である。委員の声だけではなく町民から町への要望もある。若い人から高齢者までの意見を掲載すると、見方も変わるのではないか。
- 各論について別途議論を進める旨を一言入れるべきである。長期ビジョンを作っても次にどうなるのかわからない。
- 資料2の39ページの「今後の長期ビジョン策定の進め方」に「検証するとともに次の段階を進める」旨を入れるのはどうか。
- 期と期の間を進め方を具体的に記載していればよい。次の段階でよい。
- 中間貯蔵施設を含め社会的情勢は変化する。できれば「社会情勢の変化により都度レビューしていく」という内容を入れたほうがよい。

- パブリックコメントの募集は、どうやって周知し実施するのか。いつも、住民からの意見があまり集まらない。
- パブリックコメントを募集する期間と復興推進委員会のタイミング等のスケジュールはどのように想定しているのか。
- 資料2の38ページの「農業の再開」について、農業に限らず、畜産業なども含め「6次産業化の推進」と並列した記述となっている。既存の農業等を再生させた上で6次化させるという内容で記載した方がわかりやすい。風評被害について記載されているが、生産ができないので実害としてとらえて明記することが必要だ。農業に限らず畜産業も入れて1次産業全体として「風評被害」とした方がわかりやすい。「被害対策」としてもよい。
- 災害後数年が経ち、復興に要する財源がなくなりつつある。国・県に対して財源確保を求める旨は記載してあるが、それが一番大事な事だ。財源が無くては1歩2歩も進まない。
- 財源確保に関して「なるほどな」と感じられる部分がもっとあってもよいのではないかな。今はいろいろな助成や補助を受けているが、特別財源は5年。5年経ったら「高速道路の無料はだめだ」「介護の無料はだめだ」「税金は納めろ」など、今とは違う状況になる懸念がある。物事を進めるには時間とお金が必要だということを大きく明記した方がよい。いい加減な会議をしたということではなく「血と涙が入っている」文言がほしい。
- 5年の先は「真っ暗闇」と感じる。こういった真っ暗闇の状況で、生活再建や復興についてどこまで見通しがつけられるのか。国はいつ見通しをつけてくれるのか、そこが大事である。
- 資料2の13ページ～14ページと概要版の3ページが、全く同じ表であるにも関わらず、資料2の図では町外での取組が記載されているが、要約版には記載されていない。できれば、資料2の13ページ～14ページの表を活かした方がわかりやすい。再考してほしい。
- 概要版の用紙サイズを大きくすることはできないのか。
- 概要版の図の部分のをりづけ等により入れ込むだけで良いのではないかな。
- 概要版について下に記載してある部分を縦に並べて小さくすれば、全体が入るのではないかな。図は右側にする。
- 心配な点は、町外の取組が減っていくという図である。見方によっては復興期で終わってしまう、と見える。
- 資料2の13～14ページは一番大事な表である。町外の取組であるが、

1つ1つの欄を罫線で囲い、左寄せでレイアウトをしているために、やらないように見えてしまう。センター合わせにして最初から最後まで取り組むというように見せたらどうか。

- 総論については、だいたい賛成の人が多いと思う。
- そろそろ各論に入るべきだと思う。できるのであれば、各事案について小委員会を開催するべきだ。小委員会の中身であるが、町外に関しては主に復興公営住宅などの拠点についてかと思うが、居住する人、家族、同じ状況にある人同士で話し合うべきだ。商業施設を設置する計画があれば、商業施設に入る人、コミュニティ施設を利用してイベントや活動をしたい人がいたら、そういう人も含め利用する人同士での小委員会を作るべきである。
- 県内外に避難している人は多い。家族の事情で避難先に拠点を作る人もいる。そういう人たちは、双葉町に帰りたくても帰れない。放射能の事情だけではなく、様々な事情もある。その人たちにとって復興委員会の現在の形だと違和感を覚える懸念もある。避難先にしばらく住むと決意した人たちで小委員会を作り、そこで様々な意見を出してもらうことが必要だ。
- 今後町内で事業を再開する予定がある方や町に戻りたいと考えている方に集ってもらい議論する場をつくってほしい。
- 県外への避難者は、それぞれの人に責任があるわけではなく、原発や行政に責任の一旦はあり、今後も支援を継続すべきだ。県外の人たちで作る小委員会を組織し、そこで正直に意見を出してもらうべきである。
- 所属する小委員会が重複する人も出てくるかもしれないが、細かい調整をしながら進めていくべきだ。
- 小さな子どもを持つ両親は双葉に家を持つことは大反対と聞くし、理解できる。現在子どもたちは友達関係も構築し、生活環境も整ってきているが、高校生や大学生と話すとき将来双葉町の復興に協力したいと考える人もいる。そういった思いを無駄にすべきではない。双葉町を担うのはそういう人たちである。現在の子どもたちにアンケートをとり、それをもとに「ジュニア復興委員会」などの若い人の復興委員会を立ち上げてほしい。知りたいのは、将来の双葉町をどうしたいか、ということだけである。現実に担う人に意見を出してほしい。
- 復興推進委員会のメンバーに行政担当者は入っていない。今回の提言は、復興推進委員会で決めたということで、責任は委員にかかっているが、行政側の担当者の名前を入れ、同等の責任をとってほしい。
- 今回の中間報告は、委員の意見で良くできている。委員に全体責任を負

わせるのではなく、綺麗事でなくても町民が感嘆できるものが重要である。

- すべての小委員会を同時に立ち上げるということではなく、先行して始めるべきであり、優先順位をつけるべきだ。
- 復興推進委員会に出るたびに、県内外で温度差があると感じる。県外の町民会を設けてほしい。
- これからの次世代は若者、学生や子どもたちが担う。資料2の13ページから、双葉町の記憶の伝承の記載があるが、現在の子どもの思いも記録として一緒に残し将来につなげるべきではないか。

本日の委員の意見を受けて、委員長・副委員長にて中間報告案を修正の上、後日委員長から町長へ報告することとされた。

(2) 次回の双葉町復興推進委員会の審議について

資料4に基づき、事務局より説明後、質疑。

- 第三者のコーディネーターは誰か。テーマに合致した町の職員も一緒に参加してほしい。
- グループ分けについては、適材適所をお願いしたい。
- 復興公営住宅に関わる人が直接入って議論した方がよい。場合によっては、現在の委員以外で、適正を考えて加わるべきだ。
- ワークショップの進行役が邪魔であった。次の意見を要望していても、パッと止めて進行が早すぎる。正直、残念だ。第三者はいらない。
- ワークショップの次の回あるいは、さらにその次の回はどのように考えるのか。関連付けが分からないので説明してほしい。
- 分科会では、委員だけでなく町民でその方の才覚を表している人がワークショップに混ざってはどうか。
- ファシリテーターは入れた方がよい。短時間でまとめるのは、ある程度仕方ない。
- 委員の希望とは異なるテーマで議論することについて、医療福祉に自身が入っても、現実的な内容について議論はできない。偏りがあっても専門分野の人同士で議論してほしい。
- 復興公営住宅に関するテーマのメンバーがほとんどいなくなる可能性があるとするれば、この委員会の委員構成が間違っている可能性があるのではないか。今後復興公営住宅に係る委員を入れてほしい。
- 5グループにした場合は1グループ3人くらいで話をする可能性もあ

る。数多くの内容を話し合えばよいので、必ずしも5グループに分けなくてもよいのではないか。例えば3グループにして、1グループ4～5人にくらいにしないと話が盛り上がらない。

- ぜひ学識経験者委員の先生方にもワークショップに参加してほしい。

委員の意見を踏まえて、案を基本として進めることとされた。

4. 閉会

以上

第12回双葉町復興推進委員会座席表

(敬称略)

高野	間野	伊藤
陽子	博	哲雄

- 1 日時 平成26年10月27日(月)
13:00~15:00
- 2 場所 双葉町いわき事務所 2階大会議室

課長 駒田 義誌	事務局 (復興推進課)	町長 伊澤 史朗	齊藤 六郎
課長補佐 細澤 界		副町長 半澤 浩司	菅本 洋
主任主査 橋本 靖治		教育長 半谷 淳	
副主査 山下 明弘	事務局 (復興推進課)	総括参事 武内 裕美	福田 英子
主事 西牧 孝幸		総務課長 船来 丈夫	岡村 隆夫
支援員 米山 治介		秘書広報課長 平岩 邦弘	
支援員 山中 啓稔	事務局 (復興推進課)	税務課長 山本 一弥	小畑 明美
支援員 由波 大樹		産業建設課長 猪狩 浩	山本 真理子
支援員 小山 勲		住民生活課長 松本 信英	
議会事務局長 山下 正夫		生活支援課長 志賀 睦	岡田 常雄
会計管理者 半谷 安子		健康福祉課長 大住 宗重	川原 光義
		教育総務課長 今泉 祐一	高田 秀文

芥川 一則	復興庁 八木 俊樹 企画官
大月 敏雄	復興庁 石川 義浩 参事官補佐
丹波 史紀	復興庁 福島復興局 高橋 直人 次長
長林 久夫	復興庁 福島復興局 須田 亨 参事官補佐
岩本 千夏	福島復興局 いわき支所 林 文之 次長
木藤 喜幸	福島復興局 いわき支所 桃原 信明 参事官補佐
相楽 比呂紀	
小川 貴永	福島県 避難地域復興課 佐藤 庄一 総括主幹兼副課長
谷 充	福島県 避難地域復興課 駐在員 熊坂 雅彦 副課長 福島県 避難地域復興課 根本 朝彦 主査